様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月　 ６ 日現在

機関番号：３４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ１１９３５

研究課題名（和文）口腔ケアに関する看護技術教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Continuing Nurse Education Program about Oral care

研究代表者
道重　文子（Michishige, Fumiko）

大阪医科大学・看護学部・教授

研究者番号：００２７４２６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：口腔ケアに関する病院内の看護継続教育プロトコール作成の資料とするために、一般病院における口腔ケアに関する看護継続教育体制や実施内容の実態調査を行った。915施設からの回答を得た（回収率37.0%）。口腔ケアに関する講習会は、474施設（51.9%）で企画されていた。年間の講義回数は1回が70.1%であった。教育責任者は【シリーズ化した体験型集合研修】を【専門家による研修と指導】で実現させようとしていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本調査結果から、病院における看護師を対象とした口腔ケアの継続教育の実態を明らかにすることができた。看護部責任者は、口腔ケアに関する継続教育を優先度の高い教育課題と捉え、看護部継続教育計画への反映を企画していたが、教育が行われているのは約半数であり、講義が中心であった。指導者や基礎教育の不足が課題として上げられていた。基礎教育での教育充実や指導者養成のための活動の必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to clarify current continuing education systems for nurses in providing patient oral care management. The number of responses was 915 institutions (37.0%). Education programs for nurses regarding oral care management were planned by 474 institutions (51.9%). 70.1% of them provided lectures once a year.
The heads of the nursing departments perceived ongoing nurse education regarding oral health care as [an educational task of high priority], and they planned to [address it in the ongoing education plan for the nursing department]. With the aim of making [a system through which anyone could provide individualized care], attempts were made to conduct [serialized experience-based group training] with [training and guidance by a specialist].

研究分野：看護技術

キーワード：オーラルマネジメント　口腔ケア　看護継続教育　教育プログラム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

口腔衛生管理（口腔ケア）によって長期臥症患者や周術期患者の嚥下性肺炎の予防効果が明らかにされた結果、口腔の管理に関する法律の制定、診療・介護報酬の新設や改訂が頻繁に行われている。2014 年度の改訂では、外科手術後の誤嚥性肺炎等の合併症の軽減、がん患者等の周術期等における歯科医師の包括的な口腔機能の管理等の評価に対して「周術期口腔機能管理」が算出された。口腔の健康と全身の病気との関係が明らかにされ、特に、歯周病菌によりインシュリンの抵抗性を高めることが明らかにされたことにより、糖尿病患者に対する生活指導においても口腔管理の重要性が高まっている。

口腔機能管理は、単に衛生管理だけではなく、口腔の持つあらゆる機能を整えることであり、診断や治療、口腔アセスメントや口腔ケア、生活指導や患者教育等を含むオーラルマネジメント力が求められる。

松下ら（2014）の「口腔ケア」のキーワードを含む授業時間数（専門的口腔ケアの教育時間、口腔内清掃やブラッシングに関する）の調査では、歯科医師 320 分、歯科衛生士 11760 分、医師 45 分、看護師は 121 分、言語聴覚士 138 分であったと報告しているように、医師・看護師の口腔ケアに関する授業時間は他の職種より短い。看護師を対象とした口腔ケアの研修会では、看護師は、オーラルマネジメントに関する教育を学生時代に受けているものは少なく、特に気管内挿管中の患者に対する口腔ケアに対する関心が高い。

2025 年問題を控え、地域包括ケアにおいては、看護師にチームのコーディネータとしての役割が期待されている。口腔機能管理は、単一職種だけでおこなえるものではなく、各職種が口腔機能管理に関する理解を深め、各医療機関および多職種の連携と協働により成り立つ。そのためにはコーディネータとして看護師のオーラルマネジメント力育成は重要な課題であり教育の充実が必要である。

２．研究の目的

病院に勤務する看護師の継続教育で実施されている口腔ケアに関する教育の現状を把握しオーラルマネジメント力を高める教育プログラムを開発する。

３．研究の方法

（1）文献検討

①口腔ケアにおける看護継続教育の内容を知るために文献検討を行った。医学中央雑誌 Web 版を用いて、「口腔ケア」「看護教育」をキーワードとして、2016 年 6 月現在までの文献検索を行った。原著論文は 87 件であった。原著論文の抄録を確認し、研究対象を看護師に絞り、研究内容と合致するものを確認し、最終的に 11 件を分析対象とした。

②患者の口腔セルフケア行動を変容するための、医療者の介入とその効果や示唆を明らかにするために文献検討を行った。検索データベースは医学中央雑誌 Web 版（Ver.5）で、キーワードは「ブラッシング」「口腔ケア」「介入」「セルフケア」「習慣」「行動変容」とした。調査期間は 2000 年～2016 年とした。原著論文で、自分自身でブラッシングを行えるが、口腔セルフケアに不十分な患者に、医療者が口腔セルフケア行動の変容について介入したもの 30 件を分析対象とした。

（2）実態調査

①質問紙の作成

施設概要および看護継続教育体制と口腔ケアに関する教育内容で構成し独自に作成した。

②対象者

日本病院会ホームページ（http://www.hospital.or.jp/shibu_kaiin/）で公開されている会に所属する全国の病院 2472 施設を対象とした。

③分析方法

病床数と口腔ケアチームの設置の有無別に継続教育の実施状況はクロス集計した。看護師を対象とした院内におけるオーラルマネジメント講習会のテーマの特徴、体験学習の具体的内容、看護部責任者が考える施設内の口腔ケアに関する看護継続教育への要望と課題についての自由記載の内容は質的記述的分析を行った。講義回数、講義担当者、体験学習に関する実施回数等は、単純集計した。

４．研究成果

（1）文献検討

①学習会などの開催が複数回実施されていた研究は 4 件、体験型学習会を取り入れていた研究は 4 件であった。口腔外科医師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士など他職種の協力を得て実施している研究が 5 件見られた。臨床で行われている口腔ケアに関する看護継続教育は、病棟単位で行われ、口腔衛生を主としたものであり、オーラルマネジメントの概念は普及していないことが明らかになった。今後は、オーラルマネジメントの理解を深める継続教育プログラムの開発と普及が必要であることが示唆された。

②口腔セルフケアの行動変容への介入では、個別介入は個別性に合わせた指導の工夫ができ、疾患や治療で体調が変化しやすい対象にも効果的だと考えられた。集団介入はメンバー間の相互の影響力がみられた。ブラッシング指導や口腔内観察などを医療者に直接指導することが、正しいブラッシング方法の習得に効果がみられ、パンフレット等の手本となる資料は正しい知識を得る上で効果的であった。

（2）調査結果

①継続教育の実施状況

915 施設からの回答を得た（回収率 37.0%）。病床数が 500 床以上の施設は 121（13.2%）、201～499 床の施設は 356（38.9%）、200 床以下の施設は 423（46.2%）であった。歯科外来を開設している施設は全体では 39.9%、500 床以上の施設では 82.6%、201～499 床の施設は 52.8%、200 床以下の施設は 17.3%であった。口腔ケアチームを設置している施設は、全体では 21.6%、500 床以上の施設では 43.8%、201～499 床の施設は 26.4%、200 床以下の施設は 11.8%であった。歯科外来の有無と口腔ケアチームの設置では、歯科外来有の施設では 35.6%、歯科外来無の施設では 12.5%であった。看護師を対象とした口腔ケアに関する講習会は、51.9%で企画され、口腔ケアチーム有では 83.3%、無では 43.2%であった。口腔ケアに関して強化すべき項目は、全体では、実施方法の習得 86.1%、アセスメント 85.8%、予防的ケア 84.8%、リハビリテーション 52.9%、治療の理解 41.3%であった。講習会の講師として口腔ケアチーム有の施設では歯科医師と歯科衛生士が担当していたのは 48.5%であったが、無の施設では 2.8%であった。

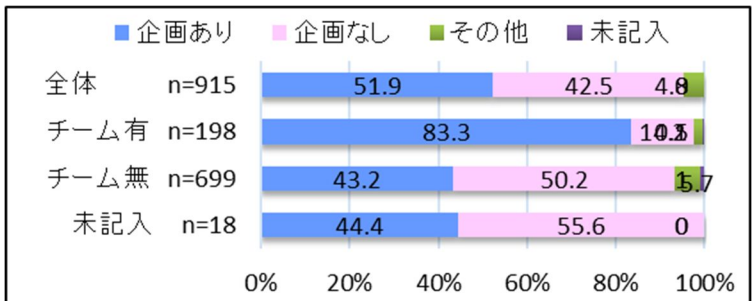

図1 口腔ケアチームの有無と講習会の企画

②講習会のテーマの特徴

看護師を対象とした院内におけるオーラルマネジメント講習会のテーマの特徴は、382 コード

と 65 サブカテゴリが抽出され、7 カテゴリに分類された。7 カテゴリは、1.口腔ケア/オーラルケア/全般の知識、2.口腔内に関する知識、3.症状/疾患/治療別の口腔ケア、4.食事介助、5.摂食・嚥下に関するケアと知識、6.口腔ケアに関するアセスメントツール、7.口腔ケアに関するチーム医療であった。

③体験学習の具体的内容

体験は、2 人がペアとなり患者体験も含めて行う体験が多く、自分の口腔ケアを行ったり、モデルを使用したり、見学やビデオ学習の形態もあった。また、オブラートやクッキーを用いて口腔内の汚染状態をつくり、それを除去する体験や、歯垢染色剤の使用、現場で困難な事例の状況設定を行うなどの工夫を行っていた。体験内容は、基本的な口腔ケア技術やマニュアル通りのケアの実施から、機能的口腔ケアなどの高度なケア技術の体験や指導者育成用プログラムまで幅広かった。具体的には口腔の観察・アセスメント、歯ブラシ・スポンジブラシなどの口腔ケア物品の選択や実際の使用について、吸引を使用した口腔ケアや舌苔などの粘膜ケアに焦点を絞った内容、水飲みテストや食事介助などの嚥下障害に関するケアなどであった。

④看護部責任者が考える施設内の口腔ケアに関する看護継続教育への要望と課題

口腔ケアにおける継続教育への要望について自由記述された内容（390 コード）は、30 サブカテゴリーから 9 カテゴリーに集約された。看護部責任者は、口腔ケアに関する継続教育を【優先度の高い教育課題】と捉え、【看護部継続教育計画への反映】を企画していた。【個別性に合ったケアを誰もが提供できる仕組み】を目指し、【シリーズ化した体験型集合研修】を【専門家による研修と指導】で実現させようとしていた。一方、【研修指導者の不在】【研修費用への支援】【基礎教育での十分な教育】を課題として認識していた。【口腔ケアに関する研修内容】の希望は、＜口腔ケアの基本的理解＞＜オーラルマネジメントの理解＞＜口腔ケアアセスメント能力の向上＞＜口腔ケアマニュアル作成と評価＞＜最新の口腔ケア用品＞についてであった。咀嚼・嚥下や言語訓練といったオーラルマネジメントに関するシリーズ化した研修内容を希望していた。また、伝達方法は、体験をベースとした研修を希望していることが分かった。講師は、歯科医師や歯科衛生士、口腔ケアチームなどの専門家による研修を希望していた。

（3）今後の課題

口腔機能の維持向上のためには、口腔衛生管理だけでなく、口腔のフレイルによる摂食嚥下機能低下も含めたオーラルマネジメントが必要となっている。看護基礎教育では口腔ケアに関する基礎的知識を学んでいるが、オーラルマネジメントは十分学べていない。そのため、看護継続教育では、誤嚥性肺炎の予防・改善や入院患者の口腔に関する QOL 向上も目指した、より実践的なオーラルマネジメントの教育が重要だと考える。しかし、口腔ケアチームの有無により口腔ケアに関する講習会の企画や講師として歯科関係者との連携に差がみられた。講師として歯科関係者を希望していたが、人材を得ることができない環境下では、看護職のなかから指導的人材を育成しリンクナースを広げることにより口腔ケアの質を向上できる。そのための研修ラダーの構築が必要である。

＜引用文献＞

松下 英二，伊賀 弘起，吉田 幸恵，山中 克己（2014）：口腔ケアに関連する国家試験の出題基準・出題状況および教育内容の調査研究：日本口腔ケア学会雑誌，8（1），　22-28,

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 恩幣宏美　柿沼明日香　道重文子　川北敬美　畑中あかね　仲前美由紀	４．巻 9
２．論文標題 口腔セルフケアの行動変容への介入に関する文献検討	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大阪医科大学看護研究雑誌	６．最初と最後の頁 52-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 米澤知恵　道重文子	４．巻 23
２．論文標題 舌苔除去方法の開発に関する基礎研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本看護福祉学会誌	６．最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 仲前美由紀　道重文子　川北敬美　畑中あかね　恩幣宏美	４．巻 7
２．論文標題 口腔ケアにおける看護継続教育に関する文献検討	５．発行年 2017年
３．雑誌名 大阪医科大学看護研究雑誌	６．最初と最後の頁 124-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 原　明子　道重文子	４．巻 7
２．論文標題 アメリカAugsburg大学における異文化看護プログラムの実際	５．発行年 2017年
３．雑誌名 大阪医科大学看護研究雑誌	６．最初と最後の頁 98-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Toshimi Kawakita, Fumiko Michishige, Akane Hatanaka, Miyuki Nakamae, Hiromi Onbe
２．発表標題 Requests and Problem for Continuing Nurse Education regarding Oral Health Care in hospitals by nurse manager
３．学会等名 22nd EAFONS（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 恩幣宏美，道重文子，川北敬美，畑中あかね，仲前美由紀
２．発表標題 院内におけるオーラルマネジメントに関する講習会の特徴
３．学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 畑中あかね，道重文子，恩幣宏美，川北敬美，仲前美由紀
２．発表標題 口腔ケアに関する看護継続教育における体験学習の実態
３．学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 道重文子，川北敬美，畑中あかね，仲前美由紀，恩幣宏美
２．発表標題 口腔ケアに関する看護継続教育と口腔ケアチームの有無との関連
３．学会等名 第44回日本看護研究学会学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 米澤知恵　道重文子
２．発表標題 各種舌清掃道具の舌苔除去効果の検討
３．学会等名 日本看護研究学会第43回学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Fumiko Michishige, Toshimi Kawakita, Miyuki Nakamae, Akane Hatanaka
２．発表標題 Continuing nursing education systems of patient oral care management in Japan
３．学会等名 ICN Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	恩幣　宏美 (Onbe Hiromi) (20434673)	群馬大学・大学院保健学研究科・准教授 (12301)	
研究分担者	仲前　美由紀 (Nakamae Miyuki) (40434675)	産業医科大学・産業保健学部・講師 (37116)	
研究分担者	川北　敬美 (Toshimi Kawakita) (50440897)	大阪医科大学・看護学部・講師 (34401)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	畑中　あかね (Akane Hatanaka) (60236669)	神戸市看護大学・看護学部・講師 (24505)	